

羅針盤

令和4年度 第1号 (通算338号)
 令和4年4月27日 (水) 発行
 岡山県総合教育センター 企画部
 Tel (0866)56-9102 Fax (0866)56-9122

『おかやまICT活用実践事例集 GIGA取材編』を発行しました！

岡山県総合教育センターでは、GIGAスクール構想の推進に向けて、調査研究として令和3年度に岡山県内の学校等に取材を行い、27事例200実践を収集し実践事例集として発行することができました。

事例は校種ごとにまとめ、端末を活用した具体的な場面等を写真とともに掲載しています。また、事例の実践のねらいや効果をアイコンを使って分類しました。



全校種版



小中版



高特版

実践事例集に掲載した学校および教育委員会の例

■ 小学校

美作市立美作北小学校



1人1台端末を活用した
6年生理科の実践

P19

■ 中学校

新見市立新見南中学校



平成26年度から1人1台端末を
実現している先進地域の取組

P33

■ 小中一貫教育校

新庄村立新庄小中学校



地域学習と教育の情報化の推進で
地域を支える人材の育成

P23

■ 高等学校

岡山県立岡山芳泉高等学校



授業活用・校内研修の実践・
1人1台端末の活用実践

P39

■ 特別支援学校

岡山県健康の森学園支援学校



GIGAスクール環境で教育の情報化
の取組がさらに加速

P53

■ 教育委員会

奈義町教育委員会



幼小中連携・端末持ち帰り・
遠隔授業

P35

GIGAスクール環境活用分類 ※ 参考として事例の実践のねらいや効果をアイコンを使って分類しています



クラウドや
アプリの活用



デジタルデータ
の保存



思考やデータの
可視化



データの共有や
共同編集



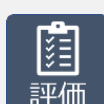
対話を
充実させる活用



思考を促す
活用



表現を
充実させる活用



課題のやり取り
と評価の支援



効率化や
省力化

※ 「Google Workspace for Education」で創る10X授業のすべて」を参考に作成

校内研修や自己研修にご活用ください。



Web版

「各校の動き」から見えてきた課題と「研修ニーズ」

見えてきた課題

- ・活用について各教員の裁量に任されている
- ・情報管理担当者の負担が大きい
- ・端末利用のルールと指導の徹底が必要
- ・情報共有が限定的で効率化できていない
- ・学年や学校間などの連絡調整できる仕組みがない
- ・地域や保護者との効率的な情報共有に課題がある
- ・端末の持ち帰りには保護者の不安が大きい
- ・ルールによる禁止の指導には限界がある
- ・タイピングスキルの差が大きく活動に時間がかかる
- ・オンライン授業に必要な機器を知りたい
- ・オンライン授業がうまく実施できない
- ・授業の説明動画を作成したい
- ・ICTを使うだけの実践になっている
- ・端末が目新しいのは最初だけだった
- ・これからの学びに生かせる活用を目指したい

課題解決に必要な方向性（研修ニーズ）

リーダーシップと
組織体制の整備

校務の情報化の推進と
授業外での活用の充実

情報活用能力の育成と
情報モラルの指導の充実

遠隔・動画技術の活用と
学習形態の工夫

学習指導要領への対応と
主体的な学習活動の充実

【参考】1人1台端末の入力技能（タイピング等）に関する系統的な指導イメージ

※ 研修講座の協議やGIGA取材の聞き取りにより、岡山県総合教育センターが作成

- ・ペンやマウス、タッチ操作で絵を描く。
- ・意図した写真や動画を撮る
- ・ペン入力による日本語変換、音声入力。
- ・ひらがな入力による、自分の名前や単語の入力など。

入力することの
楽しさを知る

入力
体験

様々な入力方法の体験
(主体的な働きかけを知る)

- ・ホームポジションや変換、文節の切り替えなどのキー操作は教える必要がある。
- ・決められた文書の入力や事前に自分で考えた文章の入力。
- ・タイピング練習のサイトの活用も有効。

入力することの
働きや役割を知る

視写
入力

ある程度の技能を
身につけるまでは、
タイピング練習が必要

- ・ローマ字の学習と連動して、ローマ字入力に挑戦する機会を設ける。

ローマ字の学習
(小3国語)

目安：10分 100文字
(小6～中1)

入力することを活用する

思考
入力

目安：10分 300文字
(中3～高1)

日常生活の中で、
思考を妨げない程度の、
入力技能を身につける

- ・日常的に、文章を考えながら入力する活動を取り入れる。
- ・学習の振り返りや日記等。
- ・文章を入力しながら、推敲するなどデジタルの良さを活かす。

▲ 入力技能イメージ（タイピングの入力数） ▼

児童生徒の実態や
カリキュラムに応じた
柔軟な取組

小学校 低学年 中学年 高学年 中学校 高等学校

2022年度のGIGAスクール構想の推進は取組の「定着」を目指す1年です。これまでの実践を振り返り、見えてきた成果や課題をもとに、効果的なICT活用と児童生徒の充実した学びを目指していきましょう。